

◆実践問題7◆

ある人、まだ朝まだき、宮へ参るに、
 拝殿の天井に、こちたくもうごめくものあり。いぶかしかり

ければ、よくよくこれを見るに、
 大きな蜘蛛、己

が糸にて人を巻き、首筋に食ひつきてゐたり。
 蜘蛛

蜘蛛はそのまま逃げぬ。やがて立ち寄り、
 取り巻く

蜘蛛の糸すじをとりて、
 さていかなる人ぞと言へ

ば、これは旅いたす者に侍るが、
 昨日のたそがれ、

この所に来たり。求むべき宿しなければ、
 この宮

居に明かさむと思ひけり。後より座頭、
 これも疲

れ顔の遠方人と見えて来たる。
 ともに寄り居て、

旅の物語などするにぞ、
 我にひとしき人もあめり

と思ふに、
 その琵琶法師、香箱のやさしきを取り

1回目
 2回目
 3回目
 4回目
 5回目

出し、これよきものか見て給はれどて、
 我が方へ

投げたり。さらばどて、
 右の手にとるに、鳥もちの

ごとくして離れず。左にて押さふるにも、
 また取

り付く。左右の足にて踏み落とさんとせしに、
 足

も離れず。とかくするうちに、
 かの座頭、蜘蛛と現

じて、我をまとひて天井へのぼり、
 ひたもの血を

吸ひくらふ。いたくたへがたうして、
 命も消ゆべ

きに極まりしに、不思議にすくひ給ふ。
 命の親な

りと語りしとなり。